

24 一揆と応仁の乱

(1) 土一揆の頻発

① 土一揆

- ア 誰が…地侍や百姓・馬借・都市下層民
- イ どうして

(a) 畿内近国での惣(惣村)の成立

(b) 飢饉の頻繁な発生

将軍	政治・戦乱	一揆
6代 義教	①足利義持の死により、足利義教が6代将軍に(籤引き将軍) ▶有力守護でもめるから義教の恐怖政治 ▶強引な守護大名抑圧策 ④1438× 永享の乱 上杉憲実 VS 足利持氏 (関東管領 (鎌倉公方)) ▶持氏の将軍狙い = 上杉憲実 を味方につけ滅ぼす cf)以後、関東は上杉氏が支配 1441×結城合戦 ▶持氏の方の結城氏朝が持氏の遺児を擁して挙兵、鎮圧 ⑤1441× 嘉吉の乱 義教→赤松の所領播磨、美作奪取やられる前にやれ! 赤松満祐による義教の謀殺 満祐逃亡→山名氏赤松を打倒 播磨・美作→山名氏へ ※将軍権威の低下=将軍・守護大名の均衡崩れる →守護大名強化化 but 国人層の統制ができなくなる	形態: 逃げるから反抗へ ②1428× 正長の徳政一揆 ▶ 近江坂本の馬借 が中心 徳政令要求→酒屋・ 土倉 ・寺院を襲撃、幕府→ 徳政認めず 成敗した管領→ 畠山満家 ③1429× 播磨の土一揆 (1)国人+百姓 旧冬の京辺→去年の冬の京都 守護 赤松満祐 の国外退去求める 徳政一揆では ない 。 守護赤松が鎮圧 ⑥1441× 嘉吉の徳政一揆 (1)将軍の代替わりが契機 (2) 徳政令 が出された 将軍や天皇が変われば、貸借関係もリセットされて借金はチャラになるという考え方が存在した。 →「 代替わりの徳政 」だ!

史料研究 大和国柳生の徳政碑文…私徳政の一例

奈良県柳生に地藏尊を彫った巨石に刻まれている。

「**正長元年**ヨリサキ者 カンヘ四カンカウニ**ヲキメ**アルヘカラス」

意味→正長元年より以前に関しては神戸四カ郷には**負債**が**いっさいない**」これは神戸4カ郷の百姓が正長の土一揆の成果を記したものである。

(『柳生街道徳政一揆の碑文』) → **正長の徳政一揆** 石には刻む

守護権を持っていた興福寺が徳政を認めたのである。

史料研究 嘉吉の徳政一揆
「今土民等、…代始めに此の沙汰先例と称す」

史料研究 播磨の土一揆
「播磨の国の土民旧冬の京辺の如く蜂起し…およそ土民侍をして国中に在らしむべからざる所と云々。…よりにて赤松入道発向しおわんぬ。」
〔薩戒記〕

正長元年九月 日、一天下の**土民**蜂起す。
【**徳政**】と号し、【**酒屋**】・【**土倉**】・寺院等破却せしめ、雑物等(と)と(と)これを破る。【**管領**】これを成敗す。およそ亡国の基、これに過ぐべからず。**日本開白以来、土民蜂起**これはじめなり。專尊著『大乘院日記目録』

応仁の乱の発生

8代将軍義政の失政

将軍	政治・戦乱	一揆
8代 義政	1454~82× 享徳の乱 鎌倉公方: 足利成氏 関東管領・上杉憲忠を殺害 →成氏→ 古河公方 (下総古河)逃れる 義政、足利政知を伊豆堀越に派遣 勢力弱く鎌倉に入れず →だから堀越公方を名乗る	
	背景	

※大規模な農民蜂起=幕府権力の低下 (応仁の乱後は全国化)

<p>義政と日野富子に男の子いない 1464 弟 義視 を後継に 1465 富子→長子出産 1467~77* 応仁・文明の乱 (1)将軍: 足利義視 VS 義尚 ▶ (義政の弟) (子) (2)有力守護 細川勝元 VS 山名持豊 (3)畠山氏 義就 VS 政長 (4)斯波氏 義廉 VS 義敏 大内氏西軍に加担 (対細川) 貿易利益</p>	<p>1485* 山城の国一揆 山城守護畠山氏の同族争い 義就 (西軍) × 政長 (東軍) ▶山城 国人 が 8 年間の自治 三十六 人衆が自治。月行事を決めて運営。 1488* 加賀の一向一揆 一向宗 門徒が 100 年間の自治 加賀の浄土真宗門徒が【国人】と結び本願寺領を形成、本願寺8代法主の【蓮如】が吉崎御坊を中心に布教、阿弥陀仏の救いを信じれば誰でも極楽往生できることを平易な文章=【御文】で説き【講】を組織して惣村に広めていった。 →守護・富樫政親 打倒、100 年間の自治 地侍と結ぶ国人にやられてしまったのである</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



応仁の乱の影響

- (a)幕府の分裂
- (b) **足軽** が横行
奇襲や撓乱のために足軽と呼ばれる機動力に富む歩兵中心の集団戦法がさかんに用いられた。都市に集まった流民や村々の百姓などから募集された、いわば傭兵である。一条兼良は『超過したる悪党』と指弾し、形を変えた土一揆ともなされた。
- (c)影響
 - …○有力守護が在京して幕政に参加する体制の崩壊
 - …○荘園制の解体が進んだ。

室町幕府＝守護体制の崩壊

- ①政治権力の分立
 - ア 細川氏が幕府の実権を握る→明応の政変 1493
→細川政権の内紛で将軍が分立
明応の政変で、管領細川政元が 10 代将軍足利義稹 (義視の子) を廃し、足利義澄 (政知の子) を新将軍に擁立した。これにより畿内では細川氏優位の情勢。しかし内紛は続き両派がそれぞれ将軍を擁して争う事態となり、将軍は分立した。

イ 関東情勢の変化

- (a)山内・扇谷上杉氏の抗争
 - (b)伊勢宗瑞 (のち北条早雲) の関東進出…堀越を攻略 1493
→堀越公方: 足利茶々丸を滅亡 1498
- ・応仁の乱後の将軍権威は地に落ちる

十一日…今日山城【**国人**】集会す。同じく国中【**土民**】等群衆す。今度両陣の時宜を申し定めんが為の故と云々。然るべきか、但し又【**下克上**】の至成。
十七日…両陣の武家衆各引退了(おわんぬ)山城一國中の国人等申し合す故也。自今以後に於ては両山方は國中に入るべからず。本所領共は、各々本の如くたるべし。新関等一切之を立つべからずと云々。珍重の事也。
十三日、今日山城国人、【**平等院**】に会合す。國中の掟法猶以て之を定べしと云々。凡そ神妙。但し公序興成せしめば天下のため然るべからざる事か。
『**尋尊**』著日記『**大乘院寺社雜事記**』

今月五日【**越前**】府中に行く。其以前越前合力勢【**賀州**】に赴く。然と雖も、一揆衆二十万人、【**富樫**】城を取りまく。故を以て、同九日城を攻落さる。皆生害す。而るに富樫一家の者一人之を取り立つ。
『**陰涼軒日録**』
泰高を【**守護**】としてより百姓とり立て富樫にて候あひだ百姓等ノウチ強ク成テ。近年ハ【**百姓**】ノ持チタル国ノヨウニナリ行キ候。
『**実悟記拾遺**』

論述研究 惣村の特徴 一橋大 2014

問1 応仁の乱に始まる争乱の時代のなかで、浄土真宗が地方的展開をするが、その過程を説明しなさい。その際、布教の中心的な担い手(人名)、布教の方法・組織をあげなさい。
【解法の手がかり】

布教の中心的な担い手= **本願寺の蓮如** をあげることができれば十分。
布教の方法・組織= **御文を使って布教**, **信者を講に組織** → 道場に寄り合う
では、メインの「浄土真宗の地方展開」。「過程」が問われているので時期区分しながら見ていく。
浄土真宗と言っても高校日本史では本願寺の動向しか取り上げられないので、本願寺とその門徒の動きを整理していけばよい。

1 応仁の乱ころ、本願寺の蓮如は教えを平易に説いた御文を使って布教し、信者を講に組織し、北陸・近畿・東海地方に教線を広めた。加賀国では門徒の国人・地侍らが一向一揆を起こして守護富樫政親を滅ぼし、16世紀半ば以降、本願寺の統制のもとでしばしば門徒たちが一向一揆を起こし、16世紀後半には織田信長政権と戦ったものの屈服した。